

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201635		
法人名	医療法人社団醫光会		
事業所名	グループホーム りんご		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町 296-5		
自己評価作成日	令和 4年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の老人保健施設が近くにあり、歯科衛生士・管理栄養士・作業療法士・理学療法士等の、職員教育指導がある。また、福祉車両が充実して利用でき、全員がそろって外出できる。訪問看護の連携や、協力医療機関である医師も電話で相談できる環境にあると思います。また、往診に来ていただいたり、薬剤師による管理指導もありDRと施設の橋渡しの役割を担っていて、医療面でも安心して入居者様が生活でき、職員も安心して仕事ができる環境にあると思います。コロナ前にはボランティア活動でフラダンス、二胡の演奏会、大正琴演奏会など、地域交流にも積極的に取り組んでいました。コロナ終息時には自由に外出したり、ボランティア活動も受け入れ地域との交流を図って行きたいと思っています

利用者への関わりにおいては、認知症ケアを基本にして、否定せずに利用者が嫌な感情が残らないように気持ちよく過ごせるように支援している。例えば、洋服を選ぶ際には職員から提案をする方が好きなものが着られるようにしたり、職員への呼びかけなどについても正しいかどうかではなくて利用者がどうしてそのように発言するのかを大切にしたりしている。また、入浴を嫌がる利用者を入浴へとつなげたり、帰宅したいと言われる利用者の気持ちをそらしたりなど、コミュニケーションを図っている。職員に対しても、一人で抱え込まないように、チームで支援することを伝え、自分の両親と意思接するように指導している。法人の関連施設があり、医療支援や教育体制などが整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここに寄り添い・ともに支え・ともに暮らす開かれたホーム」を理念にしています	事業所の理念は、毎年、職員で考えて掲げており、管理者は今年度の理念である「ここに寄り添い」とは、利用者がどのような気持ちでいるのか想像し、まずは話を聞くことであると伝えている。申し送り、理念に立ち返り支援の方法を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為交流は出来ませんが、地域の区長、民生委員、地域協力員等に書面にて報告しています	挨拶の他、近隣の方の庭の花をわけて頂いたり、庭の花を見に利用者たちと立ち寄りするつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営状況を報告し、りんごの活動を知って頂き今後は地域の活動に向けて生かしている。認知症の資料を配付して、理解をして頂いたり、サポーター養成講座のお知らせをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ蔓延防止の為運営推進会議は現在開催出来ませんが、利用者様の状況報告、行事報告、事故報告、施設の運営状況を2か月に一度書面にて報告している	コロナ禍のため、運営推進会議は開催せず、会議のメンバーに事業所の報告書とともに、事業所の新聞を郵送している。会議メンバーからの意見聴取への働きかけなどは行っておらず、意見聴取にはいたっていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは事故の報告、災害等の報告を行い連携を取っています	市へ災害状況の報告などを行い、災害時に備え市の防災アプリをもとに対策を講じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の勉強会を行い「拘束ゼロ」を掲げて日々取り組みを行っています。	身体拘束をしないことを掲げており、危険を伴う行動があった場合には、そうした行動をとる原因を探り、行動が起こらないようにして身体拘束をしないケアに努めている。管理者は、スピーチロックについて職員にしないこと、それに変わる言葉かけについても伝え、プロフェッショナルとしての対応を指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員には、高齢者虐待に関する、新聞やニュースを回覧、掲示したりして、その都度、話題に取り上げたり、勉強会に参加し部署会議等で話し合いを持ち職員全体の意識を高めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に介護福祉士等の勉強会で学び、制度の必要性を把握しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定時には、ご家族に十分な説明を行い、理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見の窓口を設け、要望や意見を職員間で共有できるようにしている	コロナ禍でこれまでのように家族と衣替えなどをすることができなくなり、家族の面会頻度によって会える機会が異なるなかで、できるだけ状況を説明するようにして意見を言える機会を作っている。また、質問があった場合には、認知症の特性をもとに行っている否定しないケアを説明するなど、理解につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で運営に係わる事を提案して、職員同士で話し合っている。	年2回個人面談を行い、管理者は一人ひとりの課題や成果を伝えながら、意見を聞いている。職員の家庭事情も踏まえて、法人へ勤務継続できるような調整を行うなど、意見の反映に努めている。職員は、安全・教育など各種委員会に所属し、運営に関わっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が目標を決め、やりがいを持って業務が遂行できるように、給与水準、労働時間、職場環境の整備に努め、職員個々の実績を把握し、評価をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、職員個々の、実際に行っているケアの力量を把握し、それに見合った、法人内の研修を開催したり、外部での研修の情報を配付して、機会を確保し、個々のケアの向上を指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の定例会・研修・事例発表会の資料に目を通せるようにし、他の施設の取り組みを学び参考出来るようにする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に面接を行い、本人様に困りごと、要望、質問等を伺い、納得、安心を得る関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前にご家族の要望をお聞きし、本人様に困りごと、要望、質問等を伺い、納得、安心を得る関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、最優先する支援を見極め、他のサービス導入も検討し、そのことを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の能力に応じて、掃除、洗濯、ゴミ捨て、洗濯物たたみ等、一緒に行って、協力して暮らしている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で本人様の状態、様子等を報告、相談をしたりして、ご家族にも積極的に支援に参加して頂ける様に心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、これまで本人様が使用してきた家具を持って来て頂いたり、ご家族の写真を掲示して、関係が途切れないようにしています。	高校時代の友人から電話があった際には取り次いだり、山登りが好きな利用者には山の話や、旅行が好きだった利用者には旅行の話など、馴染みの場所について話題にするようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の関係を把握して利用者様同士が、より良い関係が築けるように、関わり合いを支援し、利用者様が孤立しないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されたご家族や本人様から要求に対して可能な限り対応させて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聞き取り取るようにしています。それが困難な場合は本人の様子を観察し表情や対話を判断材料とし、ご家族様と共に検討しています。	どのような気持ちなのか、目線をあわせて話を聞くことを大切にして、把握に努めている。日々の生活のなかでは、本を読んだり、編み物をしたり、ぬり絵をしたり好きなように過ごせるように支援しており、ぬり絵についても好きな図柄を選んでもらえるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に、ご本人様の生活歴や環境、病歴サービスに至るまでの情報を、全職員の共通認識のもとで対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様、個々にあった支援で、画一的な支援にならない様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が、よりよく暮らせるように、本人様、ご家族様、関係者等と課題解決に向けケアの在り方を意見交換し、アイデアを出し合い話し合って介護計画を作成しています	日々の記録は、介護計画とともにファイルして介護計画がすぐみられるようにしている。また、気づきは別の色で記載することで、職員がわかり、そのことをモニタリングで検討できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個々に、日々の様子やケアの実施、気づきや、特記事項など記録して、職員間で共有し感じたことなどを話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に変化する個々のニーズに柔軟に対応出来る様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は他の地域資源を活用してはいないが、情報を把握して、いつでも柔軟に活用できる体制を整えたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の意向を伺い、納得を得た医療機関を利用されている。ご家族・ご本人の意向により歯科往診も対応している	事業所の協力医の他、これまでのかかりつけ医の受診も継続して行われている。これまでのかかりつけ医を受診する場合には、家族に依頼しており、入居時にその説明をしている。薬剤師に利用者の状態を相談し、薬剤師が医師と連携をとって薬の調整が行われており、適切な服薬ができるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と電話や連絡ノートで連携を取り緊急時など昼夜を問わず迅速な対応を行っています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された時は、病院関係者と情報交換している。また、関係者に相談したりして、関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方等を、職員間で話し合ったり、入居時に、終末期に係わる書類を説明し署名を頂いている。しかしグループホームでは限界がある旨も理解して頂いています	常時医療的処置が必要ない場合には、看取りを行うことを入居時に伝えており、医療的処置が必要な場合には、法人が運営する他の施設も含め選択肢をお伝えしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時に緊急時における対応を勉強したり、社内の勉強会に参加しマニュアルを通し緊急時の対応を学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜、地震、風水害(年4回)を想定した防災避難訓練を実施し、行政の災害速報等を利用出来る体制を取って要る	消防署の指導のもと、あわせて消防設備業者による避難訓練を行い、避難時には居室確認がスムーズにいくように表示をかけている。地域の方に協力を依頼しており、コロナ禍前には、訓練に地域の方にも参加してもらったこともあるが、コロナ禍のため途絶えている。	コロナ禍のため、訓練参加などは難しいが、災害時に備えて、地域の方への協力依頼(確認)など、なんらかの働きかけが行われることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員は利用者様の人格を尊重し、個々のプライバシーを損ねない様な支援をしています。	人生の大先輩であり、お客様であることを常に意識して対応するように、指導している。自分の両親と思って大切に、嫌な感情が残ってしまうことがないように、心がけている。対応に困った時には、職員ひとりでなんとかしようと思わずに、他の職員と協力して対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自分の思いや希望を発言でき、自己決定出来る様に日頃からコミュニケーションを図り意志決定をしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムやペースを大切に、家事手伝い、レクリエーションのお誘いは決して無理強いせず、利用者様の意志決定を尊重しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のその日の好みで自由に選んで頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様一人一人の好みは大事にしています。食事の準備は職員が行っていますが、テーブル拭きを手伝って頂いたり、行事の時のおやつ作りなどは利用者様に作って頂いています。	献立は管理栄養士がたて、職員が温かいものは温かいうちに提供することを心がけている。メニューを表示したり、焼きそばや、おやつにホットケーキなどを、利用者様にできることをしていただきながら食がすすむように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食、夕食は外部業者によるメニューにて栄養バランスを行っています。量や好みなどは、個々に合わせ対応しています。水分、食事摂取量は記録にして残しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様自身で出来る方は、見守りを行い、出来ない方は自分で行って頂いた後に職員が口腔ケアの介助を行っています。月に一度歯科衛生士による口腔スクリーニングを行い口腔内の問題点を解決できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様、個々の排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでの排泄を心掛けています。	利用者が便意・尿意がありトイレに行けるため、失敗がないように排泄チェック表をみながら間隔があていければ促したり、食前後など生活習慣にあわせて声をかけたりしている。毎日のラジオ体操や水分摂取・冷牛乳の提供など排泄ができるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や影響を理解し、水分、食事、運動、医療機関と連携しながら対応しています。排便の有無を記録として残し全職員が把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は週6回(月～土)の入浴となっています。出来る限り利用者様の要望に沿った入浴を行いたいと思っています。	入浴は週2回、利用者がリラックスして心を許す時間であり、話をしたり歌を歌ったりしている。嫌がる場合には、部屋を温めたので着替えをと脱衣所に誘いながら入浴へつなげている。お風呂場の扉には温泉マークを表示することで、利用者につながるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、一人一人に合った自分のリズムで生活して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に使用している薬の名前、効用、リスクが一覧表になっていて、職員は毎回確認を行い、入居者様に服用して頂く。また自分のサインを記録に残す事で責任感を持つようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴、好みの物、習い事、などを把握して能力に応じ出来る事などを提供して本人の楽しみになる様に支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々に散歩に出かけたい方や外気浴をしたい方の希望を出来る限り取り入れ職員と一緒に戸外に行っています。	コロナ禍で月1回の外出行事ができなくなってしまったが、陽気がよくなれば散歩やベンチでの外気浴・近くのスーパーへの買い物をする予定である。家族との外出も、利用者の張り合いになると考え、収束したらこれまで通り、そうした機会も作りたいたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で利用者様の現金は管理、または所持できない事になっていますが、一緒に買い物に出掛け、立て替える事は可能です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があれば、その都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには観葉植物を置いたり、皆で作った季節ごとの作品を展示、また楽しかったイベントの写真を掲示したりして常に利用者様が快適に生活できる様に明るい環境作りを心掛けています。	ホールは、陽ざしが入り明るく、それぞれに好きな言葉を書いた書き初めや、干支のうさぎの絵馬に書いた願い事が飾られている。テーブル・椅子の他、少し離れた場所にはテレビの前にソファが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室で過ごされたり、ホールにはソファがあり、気の合った利用者様同士が自由に会話したり、テレビをご覧になったりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を出来る限り持って来て頂いたり、テレビ、ラジオを個々に設置して、居室での一人の時間も心地よいものにして頂くようにしています。	それぞれに、テレビなどの設置の他、ぬいぐるみや写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで手すりが設置、トイレは広く車椅子の方でも使用でき、安全で、かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫してあります。		